

出題のねらい

【I】は文法力と語彙力を問う問題です。標準的な学習事項が確実に定着されているかどうか問われています。【II】は文章空所補充問題です。ここでは文脈の正確な理解に基づいて適切な語を選択する力が試されています。【III】は会話問題です。会話の自然な流れを理解し、やりとりを適切に完成させる力が必要です。【IV】は長文読解問題です。炭酸飲料の中毒性に関する文章が題材です。文章の大意から、やや詳細な情報までを正確に整理して読み取れるかが試されています。【V】は正確な文法理解と文脈の理解に基づいて基本的な英文を組み立てることができるかが問われています。

【I】

【解答】 (20点)

1	②	2	③	3	①	4	①	5	③
6	①	7	①	8	③	9	①	10	④

(各2点×10)

【解説】

- apart from Xで「Xとは別に・Xから離れて」の意。
- 関係代名詞非制限用法の問題。手前の名詞に対して X of whichで「～のうち X」という意味を表す。
- 過去完了の問題。メールを受け取る前にコンサートがキャンセルされたという時間の前後関係に注目。
- 空所の前後で文同士がつながれているので接続詞を選択する。
- had betterは否定する場合、直後にnotをつける。
- see 人 offで「人を見送る」の意。
- not so 形容詞 as to doで「～するほど…ではない」の意。
- if 節を見て仮定法過去完了であると判断する。
- to the point where SVで「SVする程度に」の意。
- the better part of Xで「Xの大部分」の意。

【II】

【解答】 (30点)

11	②	12	⑤	13	⑨	14	⑦	15	⑧
16	④	17	①	18	⑩	19	③	20	⑥

(各3点×10)

【解説】

- [you cannot live without] toolsが関係代名詞節化して tools [which you cannot live without] となっている。
- function of -ingで「～するという機能」の意。このofは手前の名詞の内容を説明する同格用法。
- include contacting…と並列の形になっているので空所には文法的に同じもの、すなわち動名詞が入る。文脈から判断して getting が適切。
- what you want to sayで「あなたが言いたいこと」の意。whatは関係代名詞で「こと・もの」を表し、直前に先行詞をおくことはない。
- the dayを関係副詞節 when以降が説明する形。
- indispensableは「必要不可欠な」の意。
- spend time -ing「～して時間を使う」を変形した形。
- このasは理由を表す用法。
- このcouldは「～かもしれない」の意。
- whether SVで「SVかどうか」の意。

【Ⅲ】

【解答】 (15点)

21	⑥	22	②	23	⑤	24	①	25	⑧
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---

(各3点×5)

【解説】

- (21)「アルバイトをしたいがどう見つけてよいか分からない」の意。
- (22)直前でインターネットの話をしているのでそれにつながる選択肢は何かという点で判断する。
- (23)直後で何曜日に授業があるのかを聞いているので、授業日程に関する内容のものを選ぶ。
- (24)具体的な曜日の話をしているということがヒントになる。
- (25)直後にコンビニでのアルバイトを考えている、と言っているので職種に関して触れている選択肢を選ぶ。

【Ⅳ】

【大意】

食事からソフトドリンクをバツサリと切ってしまうことは健康の改善そして体重を減らすのに手っ取り早い方法です。それくらいのことはおそらくとくに知っていますね。しかし、実際に炭酸飲料を飲む習慣をやめるというのは必ずしも簡単なことではありません。ソフトドリンクがなくても全く問題ないという人もいれば、朝ごはんの時に頭をスッキリさせたいと思う人もいます。私たちはただ甘い飲み物の話をしているわけではありません。一部の人のにとっては毎日の炭酸飲料の習慣というのは人工甘味料の入った飲み物を何缶も一気に飲んでしまうことですらあるのです。それはあまり良いことではありません。

ところで、普通の炭酸飲料にしろダイエット炭酸飲料にしろなぜそんなに中毒性があるのでしょうか。オハイオ州立大学の神経科学の学部課程ディレクターでもあり、Your Brain on Foodの著者でもあるGary Wenkによれば、それはすべて飲料の組成にあるということです。あなたのお気に入りのソフトドリンクのブランドは適切な量の甘味料、カフェイン、そして炭酸を調合して作られており、それによってあなたは継続的に炭酸飲料を飲みたくなるのです。

砂糖による要因

12オンスのコカコーラ一缶が39グラムもの砂糖を含んでいるという事実を考えましょう。それはティースプーン約10杯分に相当するのです。そしてそれは私たちが丸1日で消費するべき量を上回っています。その甘い飲み物はあなたを老化させるかもしれません。しかし、甘さの快感

はドラッグの場合と同じように脳の報酬中枢を活性化させるようだ、とWenkは説明します。それによって側坐核として知られる脳の部位でドーパミンという化学物質が放出されるのです。その結果、私たちは幸福感を感じるのです。「飲み物に入っている砂糖はあなたの脳を通過しドーパミンがあなたに報酬感を与えることとなります。そしてドーパミンの急増による効果はそれが到達するとすぐに消えてしまい、あなたの脳はもっとそれを欲するようになるのです。」とWenkは言います。実際、ある調査によれば、砂糖はコカインよりも報酬感を与え魅力的になることさえあり得るという結論が得られています。しかし糖分がもっと欲しいという欲求を満たすことでさらに糖分への渴望が肥大する可能性があります。「ソーダを飲めば飲むほど報酬は大きくなり、ほとんどの気持ちのよいものごとの場合と同じように、私たちはそれに対して親しみを覚えもっと多くを欲するようになるのです。」とAcademy of Nutrition and Diabetesの広報官であり、管理栄養士のCordialis Msora-Kasagoは言います。

カフェインの刺激

炭酸飲料の中毒的な性質に関して言えば糖分のみが悪い成分というわけではありません。カフェインも刺激物なのです。「そして私たちの脳は脳を刺激するものを渴望するのです。」と彼は続けます。Wenkによると、カフェインは私たちの思考を加速させるだけではなく、ドーパミンを含む報酬経路を活性化させるという独自の能力があるのです。

「カフェインは世界で最も広く消費されている神経刺激物のうちの一つです。そしてそれは確かに中毒性があります。」とノースウェスタン大学の予防医学の助教授であるMarilyn Cornelis博士は言います。「(ソーダで)私たちはカフェインと合わせて糖分による興奮状態になっているのです。それはとても良い気分でありあなたは次の日あるいは次に飲む際にもっと消費したいと思うようになる可能性があります。」

Msora-Kasagoによると、定期的に消費すると人々は集中力や注意力そしてエネルギーを増加させるためにカフェインに依存し始めます。「それに依存しているように感じるようになるかもしれませんし、さらにはカフェインを摂取しないと頭痛や集中力の欠如と言った禁断症状のサインを経験することもあります。」と彼女は言います。

炭酸による要因

炭酸飲料の魅力において相当な役割を果たすもう一つの要素があります。それが炭酸です。「もしあなたがコカコーラを取り出してそれを1日やそこら調理台の上に置いたままにしたとします。それを飲むのをどれほど楽しむことができるでしょうか。」とWenkは言います。Wenkによると、実際に炭酸はどんな飲み物もはるかに中毒性がある

公募制推薦入試／英語(後期)

るものにしてしまいます。これらの泡はちょっとした酸味を加え、それが糖分と結びついて幸福感のある「報酬」の感覚を増強させるのだ、とWenkは説明します。

【IV】

【解答】 (20点)

26	④	27	⑥	28	⑨	29	⑩
(順不同OK) (各5点×4)							

【解説】

- ④ 第三段落前半の It triggers the release…以降と一致する。
- ⑥ 第三段落後半の But satisfying that desire…以降と一致する。
- ⑨ 第六段落の When consumed…以降の記述と一致する。
- ⑩ 第七段落の carbonation makes…以降の記述と一致する。

【V】

【解答】 (15点)

問1	30	③	31	④	(5点)
問2	32	④	33	⑥	(5点)
問3	34	①	35	②	(5点)

【解説】

問1 (30) (31)

you seen that new film showing が正しい語順。ここでの showing は自動詞 show[放映される]の現在分詞。

問2 (32) (33)

How about going to that big が正しい語順。
How about -ing?[～してはどうか] は決まり文句。

問3 (34) (35)

any clean clothes left to wear が正しい語順。
left to wear が手前の名詞を後置修飾している形。